

# 宇喜多秀家供養塔

(うきたひでいえ くようとう)

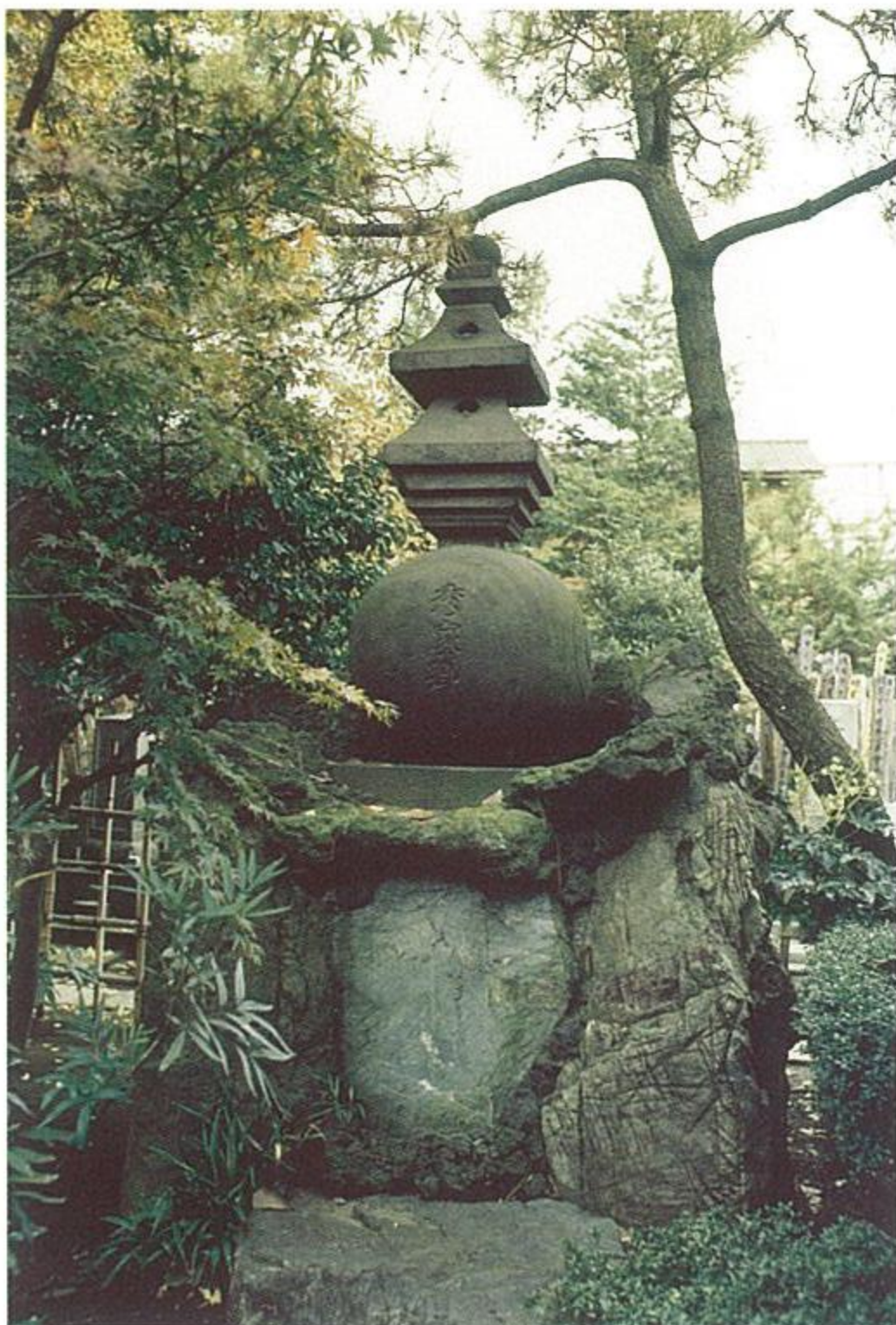
板橋区登録有形文化財(歴史資料) 平成11年3月10日登録

宇喜多秀家は、備前岡山の大名で、豊臣秀吉の信任が篤く、五大老にも任命されました。秀吉の死後、関ヶ原の戦いでは、西軍の大將として東軍と戦いましたが、敗れて八丈島へ流罪となり、罪を許されることなく明暦元年(1655)に83歳で亡くなりました。

明治5年(1872)11月、明治政府から罪を許された秀家の子孫は、秀家の妻が前田利家の娘であった縁により、前田家から約2万坪の土地と当面の生活費を与えられて、旧加賀藩下屋敷跡に入植しました。秀家の供養塔は、この時に建立されたと考えられます。

当初は、現在の板橋四丁目1番あたりに祀られていましたが、その後場所を点々と変え、昭和33年に一族の菩提寺である東光寺の境内に移設されました。

供養塔は小松石製で、「秀家卿」の文字が隷書で彫られていることや、両脇の梵字が本式の薬研彫で彫られているなど、腕の良い職人によって造られたことがうかがえます。



所在地：板橋区板橋4-13-8 (東光寺)

交通：都営三田線「新板橋駅」徒歩8分

東武東上線「下板橋駅」徒歩9分